平成 29 年 第 1 回　日本救急医学会　男女共同参画推進特別委員会　議事録
日時：平成 29 年 1 月 26 日（木）13:00 ~ 15:00
場所：日本救急医学会事務所

出席：
畝本　恭子（委員長）、田中　裕（担当理事）、岡田　昌彦、長谷　敦子、並木　みずほ、本多　ゆみえ
WEB 出席：
なし
欠席：
阿南　英明、小澤　昌子、木田　真紀、木田　佳子、木村　昭夫、角　由佳、並木　淳、矢口　有乃

議事次第
1. 第 1 回（2016.10.20）委員会議事録（案）確認　（資料 1）
2. 第 44 回日本救急医学会総会・学術集会　総括
    1. パネルディスカッション 11 のまとめ（資料 2）
        発表は、各学会がどれだけ進んでいるか、本学会がその中でどのあたりにいるかがわかった。
        各学会の抱いている危機感
        評議員も外科学会ほどではないが、まだ 10%に満たない状況で、理事に女性をいれるか、という議論にも辿り着いていない。女子学生が 30%を超えている現状で、もっと底上げをしていかないと、学会の中央に声が届かない。他学会にくらべ、遅れているということは、医師全体は女性比率が増えているのに、救急医になる女性が少なく、救急医の数が伸びなくなる。このあたりの対策を、当委員会の主導となるのか、新専門医制度委員会などで対応してゆくのかは別として、早急に行う必要がある。
        各学会の対策の良いところは取り入れる。産婦人科学会は‘女性が減ったら産婦人科は学会として成り立たない、という危機感がかなり浸透している、対策も多い。

        ● 今回の記録を学会誌の学会通信、または原著論文に
        できれば、論文にして検索できるように
        各学会の会員数の女性比率に対し、専門医数の女性比など

    2. ‘男性も入れる’女性ラウンジ　参加状況（資料 3,4）

ラウンジを、お昼を食べたり、個人の仕事を持ち込んだり、打ち合わせをしたり、という利用が目立った。（次回、入り口の掲示などの課題）

回を重ねるごとに男性の利用も増えてきているが、今年は特に多かった。認知度も上がっている。

2 日間の TEA TIME TALK も、若い女性救急医から、施設長まで様々な年代の参加があり、有意義だった。30 名ほどだったが、スペース的には良かった。

3 日目（土）の午後はオープンにする必要があるか？ミニ講演の時間の関連もあるが、次回要検討

託児所問題：足りなかった。キャンセル待ちも出た。最近、利用者が増え、男性がお子さんを連れてくるケースもある。時間制にして枠を増やす

3. 女性ラウンジにおけるアンケート結果（資料 5,6）

男女比は男性が若干多く、年代別では、女性は若手が、男性は管理者の年代が多かった

女性評議員の登用：30 歳以上の来訪者が賛同

3. 男女共同参画推進特別委員会の今後の活動について
   1. 地方会とのコラボレーション(次回、関東地方会でパネルディスカッションの企画もある)
      - 施設長・管理者向け
      - 若手向け
      - その他
   2. 他学会との連携：パネルディスカッション参加学会を始めとして
      - 今回のつながりを生かす。講演などの依頼
      - 他学会の企画参加
   3. 次回総会の企画
      - 介護の問題なども取り上げるか
      - 救急医としていろいろなケースを見ている
   4. その他
4. 当委員会の通年の活動
   1. 各地方会に働きかける。草の根運動、各地域の実情にあった企画：次回の社員総会で発言。男女参画をとりあげていただく（資料作成）
   2. 新委員の参加で全地方会に当委員会メンバー一人以上いることになる